

「地域農業の推進に関する意見書」提出



＜牧野市長に意見書を提出＞

農業委員による農地等利用最適化推進特別委員会において意見・要望を取りまとめ意見書を作成しました。

提出した意見書の内容は、次のとおりです。

【土別市に対する意見】

① 異常気象などによる干ばつ、長雨等による湿害が毎年のようにおこり適期作業等に支障が生じ収量・品質の低下を招いている。異常気象にも対応しうる作業性と生産性の高い生産基盤を築くため、次の対策等が必要である。・暗渠整備による湿害対策・地下かんがい等による干ばつ対策・土づくり対策、また、天災時における減収及び農地の復旧対策として、各関係機関と連携した新たな支援策の確立が必要である。

② 農業従事者の高齢化、後継者及び担い手不足等が進んでおり、それに伴い労働力不足

が大きな課題となっている。労働力不足解消のためには、農外からの参入者も含めた新規就農者が参入できる環境づくりが必要である。

③ 有害鳥獣駆除対策については、これまで積極的に取り組まれ、農作物の被害軽減に相応の成果があったものと考えている。しかし、依然としてエゾ鹿やアライグマそしてヒグマ等の被害は深刻であり、ヒグマについては民家付近に出没し人命に危険を及ぼす恐れもあることから、継続してハンター育成も併せ駆除対策が必要である。

④ 毎年台風や湿害等で野菜が規格外品や廃棄処分になっている。規格外品等を活用した加工設備を整えるなどの農業経営向上に向けた対策が必要である。

【国及び道に対する意見】

① 食料自給率向上対策の継続
② 経営所得安定対策の強化

- ③ 農地流動化に係る農地税制の改善
- ④ 地域実態に即した農地集積支援策の推進
- ⑤ 農業基盤整備の強化と支援拡大
- ⑥ 家族農業経営の支援・強化
- ⑦ 国際間の農業に関する交渉内容の検証と万全な対策の実施
- ⑧ 新規就農者確保・育成への支援強化
- ⑨ 担い手農家の規模拡大に対する支援強化
- ⑩ 豪雨等の災害による支援対策の強化



＜農地等利用最適化推進特別委員会＞

令和元年11月27日に、土別市農業委員会は、「地域農業の推進に関する意見書」を土別市長へ提出しました。

「意見書の提出」とは、農業委員会が所掌事務の遂行を通じて得られた知見に基づき、行政機関等に対し、農地等の利用の最適化の推進（担い手への集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消等）に関する施策の改善について意見を提出するものです。

農業委員道外視察研修

令和元年11月11日～14日

農業委員会では、農業委員活動の一環として道外先進地の取り組みについて視察研修を実施しています。

本年度は、11月11日から14日の3泊4日の日程で、福岡県久留米市の九州沖縄農業研修センター、長崎県諫早市の諫早湾干拓堤防管理事務所において視察研修を実施し、10名の委員が参加しました。

【九州沖縄農業研修センター】

この研修センターは、南西諸島を含む温暖地から暖地の水田、畑作、園芸、畜産等に関する総合研究及び地域条件に立脚した基礎的、先導的な研究を推進し、その成果の実用化を進めている国立の機関です。

今回、福岡県久留米市の拠点ではイチゴの育種及び施設野菜の栽培施設を視察させていただきました。

イチゴ育種グループでは、大規模施設栽培に向けた多収品種の育成・イチゴの高品質化と生産性向上を目指した品種改良及び技術開

発・また船便で輸出する技術開発を行い、その中で多収で粒が大きく果実が硬く日持ちが長く長期輸送にも適する「恋みのり」や「おいCベリー」等の品種が開発され、九州を中心に全国に広まりつつあるそうなので近い将来私たちの周りでもよく見るイチゴになるかもしれません。

イチゴ栽培グループでは、1棟1,000㎡の栽培棟2棟の中で移動式と固定式による高設栽培で気温・CO₂濃度・光強度・湿度等の環境条件を最適に制御することで生産性の向上を実証できたとのことでした。また、苗の段階で蒸気による熱処理をおこない病害虫を防除することにより農薬の使用を抑え低コスト・省力化に繋がる技術も紹介していただきました。

施設野菜グループでは、人工光を使った植物工場でリーフレタスやスプラウト類の生産技術開発の説明をいただき、簡易施設によるアスパラ栽培の話の中でアスパラを路地野菜とは認知していないと言いつ話を聞いて参加委員から驚きの声が出ていました。

また開発された品種や技術をよる多くの農家に実用化してもらえよう推進していきたいとのことでした。



＜九州沖縄農業研修センター＞

【諫早湾干拓堤防管理事務所】

本事務所は、諫早湾干拓事業により造成された潮受堤防や排水門等の維持管理や地域の洪水防止や排水不良の解消を目的とした調整池の水位管理等の業務を行っています。

諫早湾干拓事業は、防災機能の強化と大規模な優良農地の造成を目的に昭和61年に事業着手。平成9年4月には「ギロチン」と形容された鋼板が海底に落とされていくニュース映像を記憶されている方もいるかと思いますが、平成19年度に約700haの農地の造成と共に完成しました。

造成地への入植者戸数は平成31年4月現在35戸で個人16戸、法人

19戸で平均面積は個人9ha、法人25ha。農地はすべて賃貸で反当2万円と改良区賦課金7千円で期間は5年。作付状況は麦・たまねぎ・牧草・レタス・キャベツ・ブロッコリーが多くを占めています。また入植時にエコファーマーの取得やGAPに取り組み、使用農薬・化学肥料は県の基準の半分以内に抑える等、高レベルの環境保全型農業を展開し、大型農機具も北海道から取り寄せたり、労働力不足もベトナム人実習生等で補っているとのことでした。

九州の施設型農業と土地利用型農業の技術、取り組みを視察できこれからの地域農業への応用に向け参考になりました。
(報告 多寄 丹敬生委員)



＜諫早湾干拓堤防管理事務所＞

農業者年金についてのおしらせ

「農業者年金巡回相談会」が 開催されます

北海道農業会議による「農業者年金巡回相談会」が開催されます。

巡回相談会は、農業者年金制度に関する相談に応えるため、道内各地区を巡回し相談会を開催するもので、本年度は、士別市で開催されることとなりました。

相談会の内容は、農業者年金の受給待機者を対象とした旧制度の経営移譲年金・新制度の特例付加年金受給の説明を研修会形式で行います。

【巡回相談会日程】

▼2月6日（木）

士別市民文化センター視聴覚室



「農業者年金個別相談会」を 実施します

士別市農業委員会及び士別市農業者年金協議会では、農業者年金に対する理解をより深めていただくため、「農業者年金個別相談会」を次の日程で実施いたします。

相談会は、「農業者年金の加入を検討している方」、「経営移譲年金の受給を考えている方」など、農業者年金に関するご相談を士別市農業委員会事務局担当者が個別にお受けいたします。

【個別相談会日程】

▼士別市役所会議室 303（3階）

2月3日（月）9時～17時

2月4日（火）9時～17時

※ 62才から64才の経営移譲年金受給待機者の方には、年金個別相談会及び巡回相談会のご案内を後日、郵送いたします。

※ 農業者年金未加入者の方には、農業者年金個別相談会のご案内を後日、郵送いたします。

- あなたの老後生活への備えは十分ですか？
- 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- 老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。

農業者年金へは…



の方ならどなたでも加入できます。



農業委員活動報告

農地パトロール

令和元年8月9日～8月28日

農地パトロールは、農地法第30条第1項の規定に基づき農業委員会が毎年1回、その区域内にある農地の利用状況について調査を行うことが義務付けられています。

士別市農業委員会では、遊休農地及び遊休化のおそれがある農地の実態把握、農地の違反転用発生防止と早期発見、農地法の許可及び届出案件の履行状況の確認を目的に農地パトロールを実施しています。

本年のパトロール（利用状況調査）は各地区担当農業委員及び農業委員会事務局により市内8地区に分け計21筆を8月9日から28日の期間において実施し、遊休農地の把握に努め、農地法に基づき適正処理を行いました。



作況調査

令和元年8月27日

令和元年度の農業委員会と行政機関との合同作況調査を実施しました。

調査には農業応援アドバイザーの三分一敬氏、田中英彦氏も参加頂きました。

現地調査では、水稻・大豆・てん菜・玉ねぎなど、市内全域10カ所の圃場について調査し、各作物の生育状況など確認しました。

また、調査後には報告会を行い、農協及び共済組合推薦の農業委員、農業応援アドバイザー、農業改良普及センターから生育状況・収量等の総括について報告を受けました。大豆・玉ねぎ等に関しては5月下旬から6月下旬までの少雨・高温の影響により出芽遅れや生育の停滞が見られたが、7月の降雨・好天で平年並みかやや早い程度で推移、水稻等の農作物も同様の生育状況で推移しているとの報告でした。



平成 30 年度農地移動実績

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日（総会決定分）

(1) 農業経営基盤強化促進事業（農用地利用集積計画）による所有権移転又は利用権設定実績

地区名	所有権移転 (売買・贈与)		利用権設定 (賃貸借・使用貸借)		合 計	
	件 数	面 積	件 数	面 積	件 数	面 積
中央	25件	85.37 ha	26件	171.08 ha	51件	256.45 ha
中士別	15件	76.47 ha	9件	125.52 ha	24件	201.99 ha
上士別	18件	46.97 ha	13件	42.06 ha	31件	89.03 ha
多 寄	22件	92.90 ha	18件	148.42 ha	40件	241.32 ha
温根別	3件	5.93 ha	0件	0.00 ha	3件	5.93 ha
朝 日	6件	35.86 ha	9件	64.10 ha	15件	99.96 ha
合 計	89件	343.50 ha	75件	551.18 ha	164件	894.68 ha

(2) 上記（1）のうち離農に伴う所有権移転又は利用権設定実績

地区名	所有権移転 (売買・贈与)		利用権設定 (賃貸借・使用貸借)		合 計	
	件 数	面 積	件 数	面 積	件 数	面 積
中央	2件	15.69 ha	1件	5.68 ha	3件	21.37 ha
中士別	1件	4.41 ha	4件	45.62 ha	5件	50.03 ha
上士別	3件	4.87 ha	0件	0.00 ha	3件	4.87 ha
多 寄	4件	13.29 ha	2件	14.53 ha	6件	27.82 ha
温根別	0件	0.00 ha	0件	0.00 ha	0件	0.00 ha
朝 日	3件	33.85 ha	2件	25.12 ha	5件	58.97 ha
合 計	13件	72.11 ha	9件	90.95 ha	22件	163.06 ha

(3) 離農戸数

中 央	中士別	上士別	多 寄	温根別	朝 日	合 計
3戸	4戸	2戸	3戸	0戸	4戸	16戸

「贈与税の納税猶予の継続届出書」の提出について

贈与税の納税猶予の適用を受けている方は、3年を経過するごとに「贈与税の納税猶予の継続届出書」の提出が必要な制度となっています。

つきましては、本年、提出が必要となる納税猶予適用者に対し、令和2年1月末頃に、税務署より『納税猶予の継続届出書の提出について』という文書が送付されますので、確実に提出くださいますようお願いいたします。

なお、期限内に提出されなかった場合は、猶予税額の全部確定事由となり、納税が猶予されていた贈与税額を納付しなければならなくなりますのでご注意ください。

〈納税猶予の継続届出書の提出先〉

- (1) 確定申告を農民連盟で行う方は、各農民連盟へ提出してください。
- (2) 上記以外の方は、土別市農業委員会事務局へ提出してください。

〈提出期限〉

令和2年3月16日（月）



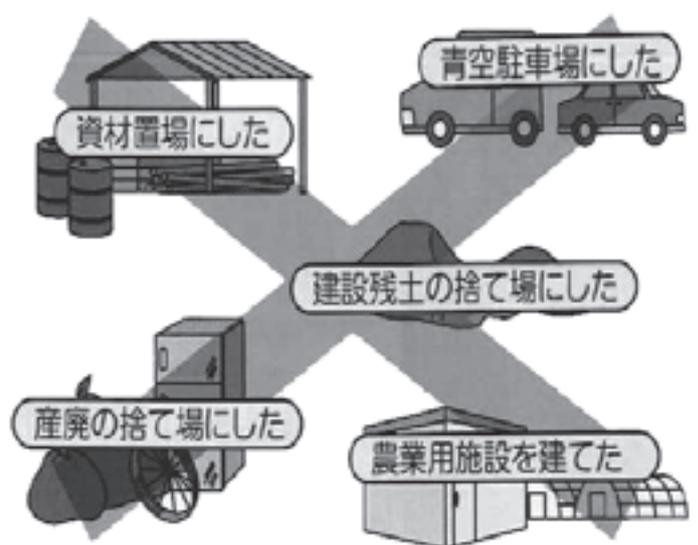
不明な点がございましたら、土別市農業委員会へお問い合わせください。

農地転用には許可が必要です

農地を住宅・倉庫・駐車場・資材置場等の農地以外のものにする場合（農地転用）には、農業委員会の許可が必要です。

個人で所有している土地であっても許可なく無断で農地を転用した場合や、許可どおりに転用をしていない場合は、農地法に違反することとなり、工事の中止や原状回復の命令がされる場合があります。（悪質な場合3年以下の懲役又三百万円以下の罰金）

転用をする場合は、事前に農業委員会へご相談ください。



新 農 業 委 員 紹 介



栗本 勝
(朝日地区)

この度、前任者の森川委員の後任として地域の推薦を受け選任され1年数ヶ月過ぎようとしています。まだまだ分からない事が多く、先輩委員の方々や事務局の指導をいただきながら地域のために頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



村上 幸博
(多寄地区)

昨年7月に農業委員に任命され1年数ヶ月が経ちました。まだまだ分からないことも多いのですが先輩農業委員の方々、事務局の皆さんの指導、協力をいただきながら活動しております。

農業を取り巻く情勢は、年々厳しさを増し地域農業は課題が山積みしていますが、地域の皆さんと共に考え少しでも役に立てよう努力していきたいと思っております。



松井 薫
(武徳地区)

地域の推薦を受け、新人としての活動を始めて早くも1年半近く過ぎましたが、わからないことばかりで、出会う案件一つ一つ先輩委員、事務局、JA営農課の職員の方々にご指導いただき、何とか解決しているところですが、地域の農業情勢は厳しさを増していますが、地域や若者の力になれるよう努力したいと思います。



◆発行日 週1回
(金曜日)
◆発行元 全国農業会議所
◆購読料 月700円
(送料、税込)

全国農業新聞の購読について

全国農業新聞は地域農業者の代表機関である農業委員会のネットワークが発行する週刊の農業総合専門紙です。農業者の「経営と暮らしに役立つ」ホットな情報を毎週金曜日にお届けします。

詳しくは、土別市農業委員会へお問い合わせください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は元号も変わり新たな気持ちでスタートしましたが、春からの異常気象、全国的には大型台風の襲来など農業を取り巻く環境は大変厳しいものがありました。天候に勝つことはできませんが、みんなでスクラムを組んで頑張りたいと思います。

本年度も有意義な情報を発信してまいりたいと思っておりますので、農業委員会業務にご理解とご協力をお願いします。

(編集委員 小野寺 悦子)

編集委員長 五十嵐浩幸
編集副委員長 森野 良次
編集委員 岡崎 京子
編集委員 小野寺悦子
編集委員 佐久間弘美
編集委員 山下 篤
編集委員 丹 敬生

